



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 金子 與志人 先生 校長
 編集 三浦 賢一 先生 同窓会事務
 印刷 同窓会 印刷

同窓会総会

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



年々、一年が過ぎるのを早く
 なっていると感じております。
 同窓会役員のお務めがありま
 すので、学校の行事で言えば、
 四月には初々しい新入生と入学
 式で出会い一年間のスタートを
 切る訳ですが、あつと言う間に
 翌年の三月卒業式になってしま
 います。
 先生方や在校生は、私以上に

学校生活の早さを感じているの
 ではないでしょうか。
 その様な一年間の中で昨年行
 なわれた同窓会の様子を投稿し
 挨拶とさせていただきます。
 昨年は二月十五日に同窓会総
 会を開催いたしました。校長先
 生と先生方、恩師、同窓生多く
 の方々にご出席の通知をいただ
 いております。この場をお借
 りして改めて御礼と感謝を申し
 上げます。
 しかし、多くの出席予定をい
 ただいていたにも関わらず予想
 外の事が起きてしまいました。
 それは、皆様の記憶にも残っ

ていると思いますが、記録的な
 豪雪の日になってしまったこと
 です。
 結果的には開催いたしました
 が、恨めしく思う天候でありま
 した。
 思う様に移動することも出来
 ずに泣く泣く欠席のご連絡をい
 ただいた方には、逆に恐縮の念
 でいっぱいです。
 また恩師を代表しては、斎藤
 和也元校長先生にご臨席いただ
 きました。
 当初の人数の半分以下でした
 が約四十人の参加でした。遠く
 は関東から電車・新幹線を乗り
 継ぎ来てくださった先輩や、雪
 の中郡山から時間を掛け閉会ギ
 リギリに到着してくださった後
 輩などもおりました。
 総会・懇親会は滞りなく終え

ることが出来ましたが、更なる
 悲劇が待っていました。
 それは、帰りの手段が確保で
 きないと言う状況でした。タク
 シーは予約困難・公共交通機関
 停止・自宅からの迎えも難しい
 中での解散となりました。天候
 のせいとは言え、最後までご迷
 惑お掛けしましたことにお詫び
 申し上げます。
 また、準備と当日の運営にご
 尽力いただいた先生方には重ね
 て感謝申し上げます。
 今だから言えるのですが、今
 となつては忘れられない同窓会
 総会になつたのではないでしょ
 うか。本当にありがとうございました。
 次回の総会は、来年の予定で
 す。前回ご出席いただいていた
 方はもちろんのこと、近くにいら
 っしゃる同窓生にも一言お声
 を掛けていただきます様にお願
 いいたします。
 二年に一回の総会・懇親会を
 行つておりますが、世代を越え
 た方々とお会いすることはとて



も楽しい時間です。
 同窓会会長職をおあずかりし
 ていますから楽しいばかりでは
 駄目ですが、時には旧交を温め
 ながら次の同窓会活動につなげ
 て行きたいと思っております。
 同窓会、在校生に対し少しで
 もご支援できる様、出来る限り
 努力して参りますので、今後も
 かわらぬ理解とご協力をよろし
 くお願いします。

東高の学校文化

福島東高等学校長 本多光弥



昨年四月に本校に着任し、まもなく一年が過ぎようとしています。同窓会の皆様をはじめ、地域の方々、関係者の皆様には大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。

本校は今年で創立三十五年目を迎えています。創造、協調、躍進という校訓を旗印に、密度の濃い学習活動と部活動等の特別活動の両立を通して知徳体のバランスのとれた人間の育成を目指した教育を推進し、これまでに一万一千名を超える有為な人材を輩出しています。

昨年八月には同窓生であるテノール歌手の樋口達哉氏のコンサートが福島市音楽堂で開かれ、その繊細かつ圧倒的な歌声と母校を思い懐かしむ語りが、詰めかけた大勢の聴衆を魅了しました。また、十月に行われた「さ

さまざまな職業人に聴く」という行事では、福島ユナイテッドFCの鈴木勇人氏を始め各方面で活躍しておられる八名の同窓生の方々に講師をお願いし、充実した会にすることができました。生徒にとつては身近に思える先輩方の話を聴くことで、単に知識だけではなく考え方の幅を広げるよい機会になりました。

本校の現況ですが、昨春の大学入試では、現浪合わせて二二八名の国公立大学合格者、四〇四名の私立大学合格者という結果を残し、進学校としての実績を着実に積み重ねています。また、部活動等の活躍にも目覚ましいものがあり、陸上部、弓道部、テニス部、放送部が全国大会に、美術部、合唱部が全国高等学校総合文化祭に出場したのを始め、ソフトボール部の東北大会優勝や水泳部の東北大会出場などの輝かしい成果を上げています。

年末には、本校野球部が春の選抜高校野球の二十一世紀枠候補補校に選出され、日本高等学

校野球連盟から表彰されました。残念ながら最終的には甲子園出場への悲願は叶いませんでしたが、文武両道を貫く姿勢が他校の模範として大きく評価されたことは大変名譽なことであり、甲子園がまた一歩近づいた感がありました。

現在、本校では三十三期から三十五期の計八百七十九名の生徒が学校生活を送っています。ほとんどの生徒が毎日朝早くから登校し、「おはようございます。」「こんにちは」という元気の良い挨拶、そして課題やゼ口校時に取り組むことから一日が始まり、七校時までの授業に臨みます。

授業中は、どの教室にも真剣なまなざしで授業を受ける生徒達の姿があり、顔を上げて我ら開かれた道を行く…学ぶことは日々を新しくすること…はげしい心美しくせよ青春時代…と、音楽の授業で生徒達が歌う校歌や、膝の擦り傷歩く術を知った僕は前よりも強くなれただろうか…という青春歌が聞こえてきます。

放課後、部活動に励む元気な声でグラウンド、体育館など校地内は活気に満ち、吹奏楽部の奏でる美しい音楽や合唱部の澄ん

だ歌声、そして自照の池に響き渡る応援団の凛々しい声。かと思えば書道部、科学部などの文化部が黙々と校舎内で活動していたり、教室で勉強している者もいる。生徒会室ではなにやら真剣に話し合いをしている。勉強を一生懸命頑張り、そして行事や部活動では思いつきり燃える東高生の姿、そういう伝統、東高の学校文化が脈々と生きていると感じます。

また、今年度は、本校の歴史に新たなページが加わることになりました。本校初となる女性応援団長の誕生です。高校野球の新人大会で凛々しい応援を披露し、試合終了後には両校の健闘を讃える清々しいエールが球場に響き渡りました。

八月二十九日には本校の伝統行事である東桜祭が開催されました。今年是非公開の年で体育館でのステージ発表でしたが、短期決戦だったにもかかわらず、いつの間にも準備したのか不思議に思うくらい、各クラス工夫を凝らした演技が展開されました。時間と予算をつぎ込めば良いものができてすばらしいだろうと思いがちですが、勉強に部活動等にそれぞれが忙しい中、知恵を出し合って自分達の作品とし

て仕上げていく、そこにこそ価値があり、得るものも大きいのだらうと思っております。それにして、特に三年生の演技には三年間の成長の跡が十分にうかがえる内容がありました。三年間を通して身につけたものは血となり肉となり、やがては大学入試だけでなく将来に向けても必ずや財産になるものと思っております。

お知らせ

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。東高の電話番号は 024-531-1551 です。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

- [名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。
[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項
[役員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

- [顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。
[総会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めたる時は臨時総会を開くことができる。
第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項
第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。
[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。
[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。
[会計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。
附則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成25年度 歳入歳出決算書

Table with 2 columns: 項目, 金額. 歳入金額 4,083,639円, 歳出金額 3,605,558円, 差引残額 478,081円

1. 歳入

▲は減少 単位:円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計

2. 歳出

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残額, 備考. 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援費, 公開文化祭後援費, 50周年事業積立, 予備費, 合計

* 項目科目間の流用を認める。

平成26年度 歳入歳出予算書(案)

Table with 2 columns: 項目, 金額. 歳入金額 5,150,000円, 歳出金額 5,150,000円, 差引残額 0円

1. 歳入

▲は減少 単位:円

Table with 6 columns: 項目, 26年度予算額, 25年度予算額, 比較増減額, 備考. 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計

2. 歳出

Table with 6 columns: 項目(科目), 26年度予算額, 25年度決算額, 比較増減額, 備考. 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援費, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」

協賛者名

()は卒業期 ()は旧姓

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いします。その際、おわかりになりましたら、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

- 義則(1)大平睦生(1)岡田(安斎)正孝(1)久能靖(1)後藤尚生(1)笹木毅(1)渡邊浩(1)遠藤勝利(2)久保芳宏(2)穴戸英樹(2)渡辺武浩(2)真柴毅(2)森藤禎育(2)阿部浩行(2)佐久間俊光(2)穴戸佐寿(2)武田将英(2)金子與志人(3)齋藤孝一(3)大内則和(3)浦倉達也(3)紺野信幸(3)佐々木晋一(3)穴戸純一(3)小林雄(3)菅野高弘(3)寺島健吾(3)西條正美(3)紺野勝弘(3)原田政彦(3)相原徹(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)吉川裕(4)上原子祐司(4)佐藤真一(4)星達雄(4)梅津清(4)高橋秀明(4)若梅富士夫(5)上川高志(5)室井克典(5)春日部勝(5)小竹智行(5)八島充(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)古閑啓(5)菅野晃弘(5)山岸淳一(5)高橋城士(6)松原高夫(6)藤倉功(6)山川毅(6)佐々木光洋(6)鈴木一義(6)小熊弘人(6)齋藤善夫(6)渡部泰史(7)大波哲也(7)鴛巢健治(7)安齋晃(8)石原英明(8)二文字屋哲(8)佐藤純一(8)伊藤(高野)宏之(9)佐原常吉(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)丹治正樹(10)内山雄史(10)篠崎秀(10)熊本康(10)穴戸克成(10)熊坂隆行(10)高橋誠(10)三浦和幸(10)野口幸哉(10)上原子拓司(10)吉田耕嗣(10)小林正宏(11)菅野貴洋(11)河内正和(11)高坂知秀(11)根本一幸(11)宮崎康弘(11)穂苅康介(12)加藤大信(12)齋藤讓(12)服部博志

- (12)樋口智洋(13)早田仕(13)渡邊勝己(13)石川亨(13)廣野功二郎(14)松野哲郎(14)村山健一(14)高橋剛(14)伊藤規義(14)本多貴洋(14)菅野洋和(14)宮本教広(14)奥山拓也(15)菅野元樹(15)渡邊繁(15)阿部裕一(15)齋藤訓朗(15)紺野俊介(15)栗原功(15)二文字屋剛(15)湯野澤しのぶ(16)鈴木尚也(16)横田(佐藤)理江(16)橋本真(16)渡辺久美子(16)古閑康宏(16)土屋令雄(16)茂木貴光(16)阿部信一(17)松野大悟(17)上杉光成(17)今野陽介(18)水野裕史(18)根本元徳(18)湯野川賢一郎(18)菊田大樹(18)菅野理範(18)齋藤貴裕(18)安達美希子(19)高間歩(19)酒井強(19)片平美代子(19)櫻田貴志(20)佐藤寛之(20)山田幸裕(20)古山由佳(20)齋藤広彰(21)伊達孝浩(21)渡辺将人(22)竹内大宗(22)渡邊亮(22)高橋政哉(23)阿部尚徳(23)菅野禎人(23)紺野靖(23)長島慎弥(23)高野未咲(24)渡邊あゆみ(24)林直人(24)加藤丈実(24)見城藍(24)菅野章平(24)松田ゆきえ(24)渡辺俊介(24)國分優佳(24)阿部兼太郎(24)齋藤智樹(25)加藤千裕(25)阿部隆徳(25)末永光(25)本田勇輝(25)八巻高教(25)舟山貴之(26)高島勇介(26)油井恵(26)芦野洋樹(27)佐藤李保(27)関口愛実(27)佐々木孝智(27)佐藤香(27)根本明大(27)古山彩佳(27)三浦崇悦(28)鈴木燮(28)大和田善愛(28)黒田耕平(28)遠藤俊平(28)澤井友平(28)佐久間悠里

平成26年度在校生支援事業

- 定期演奏会・発表会補助
・吹奏楽部 第31回定期演奏会 50,000円
・合唱部 第12回定期演奏会 50,000円
・ダンス部 第8回定期発表会 20,000円
・美術部 第35回桜美展 30,000円
- 全国大会出場への激励金
・陸上部 40,000円
・テニス部 20,000円
・弓道部 180,000円
・美術部 20,000円
・放送委員会 30,000円
・合唱部 30,000円
- 体育設備・ユニフォーム支援
・グラウンド照明 467,458円
・ハンドボール部ユニフォーム 181,440円

平成二十六年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。

平成26年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生
千葉春樹	物理	29期
渡邊奈々美	保健体育	29期
小林亮介	英語	28期
枝浪美咲	美術	28期
宗形千穂	養護	29期
鈴木智博	保健体育	29期

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありませんたら、事務局まで一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 12 columns: 卒業年度 (S57-H4), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

Table with 12 columns: 卒業年度 (H5-H15), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

Table with 10 columns: 卒業年度 (H16-H25), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大.

(表1)

大学別合格者数 (平成25・24・23年度入試)

Table with 5 columns: 大学名, 平成25年度生, 平成24年度生, 平成23年度生. Lists various universities and their student counts.

Table with 5 columns: 大学名, 平成25年度生, 平成24年度生, 平成23年度生. Lists various universities and their student counts.

現役大学等進学率…32期平成25年度生(80.1%)、31期平成24年度生(73.7%)、30期平成23年度生(83.0%)

進路



進路指導部主任 千葉 聡

ここ数年の経済状況の変化により、医療、工学や農学といった実学系の人気が高まり、「文低理高」の傾向が引き続き顕著であり、理系生徒にとっては国公立、私立を問わず激戦となっている。センター試験において

は、文系に選択者の多い生物や地学の低調や国語の難化により、文系選択者にとっても非常に苦しい展開だったと言える。また受験生の安全志向が年々強まっている状況は、国公立の中堅校に受験生が集中するという現状を生み出した。本校生の状況である。山形大、茨城大、新潟大をはじめ、福島の合格者を例年より伸ばし、地元志向の強さを表している

(表2)

言えよう。一方で、東北大、千葉大、埼玉大の合格者数が伸び悩み、上位層の育成が今後の課題としてあげられる。これらは前述の傾向に加え、八クラスから七クラスへの学級減も要因の一つであるが、今後乗り越えていかなければならない大きな課題であると強く感じている。

さて、大学入試改革についてひとこと触れておきたい。「従来のような受け身の学習方法や、暗記に偏ったテストではなく、思考力や判断力を評価す」というものだが、「高等学校基礎学力テスト」や「大学入学希望者学力評価テスト」では、年複数回の実施や思考力・判断力・表現力を評価する総合型問題が検討されているという。「創造・協調・躍進」を校訓とし、「文武両道」をモットーとする本校にとって、これらは大きなチャンスであると考えなければならぬ。「主体的な学び」や「学習と部活動の両立のあり方」を議論し、本校のあり方を議論していかなければならない時期であると強く感じている。職員・生徒・保護者が一丸となり、「新しい伝統」に向かって邁進していくつもりである。

最後に、日頃より本校の教育活動を支えていただいている同

窓会や保護者の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。そして、三十三年、三十四期、将来の東高生の健闘を心より祈念している。

32期総括



32期学年主任
今野 充宏

今でも忘れることができない平成二十三年三月十一日午後二時四十六分。東日本大震災の発生。三十二期生はこの時、午前中に中学校での卒業式を終え、高校入試の結果発表までのゆとりとした時間を過ごしていただろう。しかし、この時を以て激動の生活へ突入。合格発表は延期。本当に高校に入学できるのだろうか、転校しなければいけないようになるのではないだろうか、様々な不安に襲われたに違いない。東高も大変だった。避難所となり、南相馬市を中心に多くの方が避難されていた。「福島」の未来を担う若者たちの出発を邪魔してはいけない」と避難されていた方が第一体育館を移っていたのは入学式の前日。私は当時教務主任だったので、校舎の復旧、高校入試の合格発

表、避難所の対応、入学式の準備を行った。そして、私自身が浪江町に住んでいたために、家族を岩手に避難をさせ、避難先のアパートを探し、子どもの転校手続きに追われるなどすべてに忙殺された毎日を送っていた。

三十二期生のスタートは異例づくしのものだった。新入生オリエンテーションは中止、教科書販売、シューズ、運動着などの準備も入学後のことで、当初は制服も含め中学時代のものの使用も認められた。四月十一日、入学式の最中に起こった大きな余震に「この子たちは無事に卒業式を迎えることができるのだろうか」という思いを抱いた。しかし、尾形幸男同窓会長(当時)の祝辞は弱気になりがちな気持ちを奮い立たせてくれた。その一部を紹介する。

「この入学式が決して当たり前ではなく、我々は今を大切に過ごさなければならぬことを。今日でちょうど一カ月前のあの時から、身をもって感じさせられました。皆さんと同じ新入生の中には、合格の感動を味わえず避難所でその結果を静かに知った仲間がいます。入学式をいつ行えるのかも分からずに避難所で必死にボランティアに打ち込んでいる仲間がいます。そ

して、合格の喜びを一番最初に伝えたいお父さんやお母さんを今でも探している仲間がいます。我々は、今ある命に感謝しなければなりません。当たり前前の今に感謝しなければなりません。」

そして、五月に相双地区からの五名の転校生を迎えてはじめての三十二期生のスタートとなったのである。高校の入学式を体験できなかった転校生を「式」に近い形で迎えたいと考えた。平岩校長、尾形会長のご理解をいただき、会議室で厳肅に行われた「式」を私は忘れることはないだろう。震災を経験した三十二期生には「強く、成長して欲しい」と考えた。そのためには、多くのことを語りかけ、多くの「本物」を体験させたいとこの時に決意したのだった。

進路を決定する大学入試においても、三年次に大規模改修工事があり、旧課程最後の入試で浪人を嫌う安全志向の風潮、センター試験問題の前年度に続く難化、二月の記録的な大雪のために十分な二次指導を行うことができなかったことなど最後まで「逆風」にさらされた学年だった。しかし、三十二期生が在学中に体験した多くのことは、血肉となって人生をたくましく生

き抜く力となり、大輪の花を咲かせてくれるものと信じている。学年通信「桜木通信」について 毎週発行し、通算一三九号以上を数えた学年通信は毎号、先生方が代わる代わる、身を削って、三十二期生に語りかけたものだ。高校時代を思い出したとき、何らかの生きる力になってくれれば、と思つて書き綴った。卒業を前に担任団から離れてしまわれた野村、樋口、清水、クームズ先生の話は考えさせられるものだった。執筆いただいた多くの先生方に感謝申し上げます。正直な話、朝倉先生のジャイアント愛には辟易していましたが、修学旅行について

「本物」を体験したいと練りに練つた行程だった。特に夜のメニューは観光客がいない比叡山延暦寺、大江能楽堂、舞妓さんの舞踊鑑賞、ナイター観戦などどれも魅力的なものだった。朝六時起床(朝練は五時から)、夜は九時過ぎに旅館に到着というように過酷な体育会の合宿のような修学旅行となつたため、唯一の心配であつた体調面での不安を訴える生徒もなく安心した。東高でしかできない修学旅行であつた。

全校応援について
野球部で四回(二年夏、三年

全国大会出場報告

全国インターハイに

出場するまで

陸上競技部顧問 菅野 悟史

七月三十日から山梨県で開催

された全国高等学校総合体育大会

に本校陸上部の二名(菅野杏

奈・菅野鈴菜)が出場した。本

校陸上部の全国大会出場は三年

連続の出場であり、出場した生

徒の並々ならぬ努力があつてこ

そではあるが、共に練習を積ん

できた他の部員達や日頃から応

援や支援してくださっている保

護者など本陸上部に係わる全て

の方々の努力で出場できたと思

う。この場をお借りして感謝を

申し上げます。

さて、陸上競技で全国インター

ハイに出場するには県大会で六

位に入賞し、次の東北大会で六

位に入賞しなければならぬシ

ステムである。杏奈は八〇〇m、

鈴菜は一五〇〇mで東北大会を

突破できたが、杏奈は県大会を

三位で、鈴菜は県大会を五位で

通過した生徒であり、この時点

では東北大会を突破できるとは

とうい思えなかつたのが正直

なところである。県大会から東

北大会までは三週間の期間があ

梅桜戦、夏準々決勝、準決勝)。感謝感激。特に春の東北大会で利府高(宮城)、能代松陽(秋田)に勝利し、準決勝で盛大附に敗れたとはいえ、ベスト4に勝ち上がったことは素晴らしい。

春の県決勝で聖光学院に大差で敗れた、あのどん底の雰囲気からよく立ち直ったものだと思う。

そして、今泉翔太が甲子園大会の先導を務めたときの映像は一生目に焼き付いているだろう。

サッカー部で一回。選手権の県準決勝富岡戦。冷たい霧雨が降る中での激闘。惜敗だったが、

その後のプリンスリーグ東北大会への入れ替え戦での羽黒(山形)戦。0-3からの大逆転劇。

あの応援の気持ちが届いていた証だと思ふ。鏡石のピッチに整列して立つた君達の涙を忘れな

い。

同窓会にはバス代等で多大な金額を出していただき、大変お世話になりました。お陰様で後輩たちはお金で得ることができない「本物」の体験を数多くすることができました。快く応じて下さった金子会長をはじめ役員の皆様から感謝申し上げます。

担任団について

やんちゃな理論家の富良謝、

学年のお母さん渋川、オレンジ

野郎朝倉、実直な数字職人中村縁の下の力持ち渡邊吉城、ダンディ千葉、学年のお姉ちゃん霜山、学年のお兄ちゃん菅野のメンバーで意識の高い学年団を組めたことはありがたかった。

三十二期生の皆様へ

私たちは三十二期生と正面から向き合ってきたつもりだが、十分にその能力を引き出すことはできなかったかもしれない。

しかし、東高三十二期生として過ごした三年間は「本物」だ。

顔を上げて、自信を持って、堂々と人生を生きて欲しい。三十二期生として誇りを胸に。

同窓生・保護者の皆様へ

私は東高の二期生です。「東高生である(あつた)こと」は私のアイデンティティです。自分の母校で幸せな十年間を過ごすことができました。同窓生であるがゆえにわがままを言い、

多くの迷惑をお掛けしましたがご容赦下さい。これからはがんばる後輩たちを陰から応援していきたいと思ひます。退職した後、野球部の試合をバックネット裏で観戦し、勝利の後に立ち上がって部員とともに校歌をうたうことを楽しみにしています。

るため、もう一度練習を見直し、コンディショニングを整えて東北大会に臨んだわけだが、見事に東北大会を突破してくれた。生徒の努力が実を結んだ嬉しさはもろろんだが、全国大会出場を継続できた安堵感もあつてホツとしたのが一番であつた。

今回は二名の生徒が全国大会へ出場したが、両名とも中学校時代に全国大会への出場経験もなく、高校で力を伸ばした生徒である。この二人を見てみると

目標を明確にし、常に高い意識で練習を行っていたように思う。

この二人に続く後輩が出てきてくれることを切に願ひながら、

来年も全国大会出場を継続できるように生徒と一緒に頑張っていきたい。

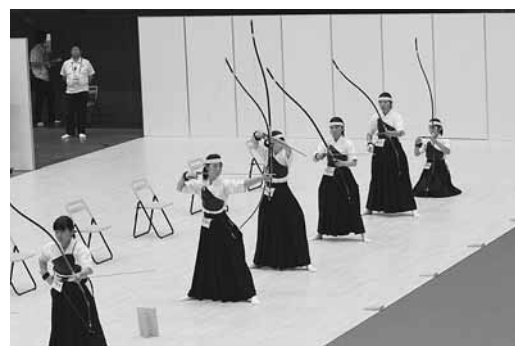
南関東総体2014(東京)

インターハイ)に参加して

弓道部顧問 千葉 聡

本番を控え、真剣に調整に励んでいるあの緊張感が好きだ。

不思議なことに、苦しめば苦しむ程、試合を終えたときに手応えや自信となつて自分自身に還元されるものなのだ。もちろん選手にとってはそんなことに考



えが及ぶはずはないだろうけれど。

そんな選手達にとって、私たち教員が出来ることとはどんなことだろう。ベテランになれば、

気の利いたアドバイスをすることも可能だろう。しかし、苦しい時間を共有すること自体が生徒自身を、そして私たち教員をも成長させてくれるのだろうと思つている。炎天下の下、三

六cmの的をひたすらにねらい続けた。いったい何本引いたのだろう。練習し、話しまくった数日間だった。

試合を終えたとき、応援に駆けつけていた皆さんの部員達に囲まれて、はじけるような笑顔があつた。みんな、ありがと

う!



雄大のペアがそれぞれ全国大会への出場を決めてくれました。インターハイで団体・シングルス・ダブルスの三冠を目指していたチームとしては、

南関東総体2014
(於：東京武道館特設テニスコート)

参加生徒 3年 荒明由希

鈴木知夏

菅野初音

三浦美佑

2年 八島麗奈

梅津 舞

若梅紗織

記録 全国ベスト16

全国大会出場報告

男子テニス部顧問 朝倉 昭博

今年には残念ながらインターハイにはあと一步届かず、県予選で団体戦三位、個人シングルス三位、個人ダブルス二位という結果でした。しかし、インターハイ県予選終了後の国民体育大会選手選考会では小川雄大が、全日本ジュニアテニス選手権東北地区予選では菅野将大・小川

上記の結果に落胆し、気持ち下がってしまったところですが、その悔しさをばねにして素晴らしい戦いを繰り広げてくれました。自分のため、そしてチームのため、応援して下さいました。このために悔しくてモチベーションが下がってしまったところをよく堪えて頑張ってくれました。

高校部活動は勝利がすべてではないことは確かです。礼儀や挨拶に始まり、チームワークや仲間とともに作り上げる時間は、かけがえのないものです。その経験をした者でしか手に入らない唯一のものだと思います。しかし、自分達が頑張ったという結果に残るものも同時に欲しくなるものです。それは自分の結果ではなくても団体の記録であったり、チームの一員だったりでも十分嬉しいものだと思います。一緒に汗を流し、肩を並べて部

活動を行えたことは誇りになり得るものです。そういった意味でも、菅野将大・小川雄大の活躍は素晴らしいものでした。

全日本ジュニアダブルスは一回戦、浜松市立高校の古田・杉澤ペアに善戦するも惜敗してしまいました。国民体育大会では二回戦からの登場で群馬県を相手に接戦を制して勝ち上がり、第七シードの大阪府と熱戦を繰り上げましたが、残念ながら敗退しました。

全国大会に出場している選手との差は確実に無くなってきています。今後も継続し全国大会に出場することで力は本物になると思います。なお、福島東高校男子テニス部は新人戦で県大会優勝し、東北大会でも三位となりました。今後の活躍にもぜひご期待ください。(一期生)

全国大会に出場して

二年六組 小川 雄大

僕にとって、昨年度の最大の目標はインターハイ出場でした。団体戦・個人戦共に出場を狙っていた以上に日々の練習に力をいれていました。顧問の朝倉先生にはたくさん遠征に連れて行って頂き、テニス部の仲間と切磋琢磨しながら頑張りました。



しかし、目標を達成する事は出来ませんでした。少しの間テニスから離れたい気持ちにもなりました。しかし、その後の試合で勝ち進み全日本ジュニア・長崎国体の出場を得る事が出来ました。その時、練習の大切さをより感じました。

八月に大阪で戦った全国ジュニアでは、先輩菅野さんとダブルスでは三度目の出場となりました。今回こそは一回戦を勝ち進み勝利したかったのですが、相手のサーブの速さ、ミスのないラリーで、相手をなかなか自分達の流れにもっていき事が出来ませんでした。シングルスでは相手の巧みなサーブ、ショットに自分のテニスをさせてもらえませんでした。残念ながら初戦敗退でした。

十月には、長崎国体に出場しました。二回戦の相手群馬に二回戦の相手は豪大阪には〇二で負けてしまいました。団体は、他の大会とは異なり特別な雰囲気を感じられませんでした。

全国大会を経験して、自分がまだまだだと実感させられました。いつかこの舞台で勝ち進めるように努力をしていきたいと思えます。

昨年一年の大会を通して、僕を支えて下さった先生方、テニス部の仲間、支えてくださった皆さんの方々に感謝したいです。ありがとうございました。今年はその夢にむかって一つずつ成長し、自分を信じてチームの皆を信じて、まだはたす事が出来ない最大の目標「インターハイ出場」を必ず達成させたいと思えます。

第38回全国高等学校総合文化祭に参加して

合唱部顧問 星 英一

本校合唱部四十七名は、平成二十六年七月三十一日に茨城県つくば市のノバホールで開催された、第三十八回全国高等学校総合文化祭合唱部門に、福島県代表として参加しました。合唱王国として全国に名をと

どろかせている福島県の代表というところで、生徒は緊張の中にも高い意気込みを持って練習に励んできました。

前日には交流会ということで、各校が出身県の特徴や学校のPRなどを生徒代表が紹介し合いました。また当日は各団体による演奏披露があり、本校は無伴奏の日本語とギリシア語の曲を演奏しました。東高合唱部の魅力を伝える演奏ができたと考えられております。今回の参加にあたり、同窓会の皆様には応援いただき感謝申し上げます。

それと、もう一つご報告と御礼がございます。平成二十六年三月二十一日に第七回音楽アンサンブルコンテスト全国大会が福島市音楽堂で開催されました。福島東高校合唱団は高等学校部門に出場し、二年連続で金賞を受賞しました。その出場にあたり、同窓会の皆様から激励金をいただきました。前回の同窓会報発行後のことでしたので、併せて御礼申し上げます。

今後、合唱部は福島東高校の名を高めることができますよう、部員一同励んでいきたいと存じます。今後ともお力添えをよろしく願います。

夏の全国高文祭美術展

美術部顧問 片平 仁

七月の全国高文祭美術展は、七月二十七日から三十一日まで茨城県立近代美術館で開催された。美術部としては二年連続の全国高文祭美術展への出品である。福島県の作品は前年度の県高校生美術展に出品された三三五点の中から選ばれた七点だったが、そこに本校三年高橋史華のCG作品が含まれていた。彼女は三年一学期までの美術部の活動の中で、出品した三回の公募展で全作受賞するという快挙

を成し遂げた優秀なクリエーターである。

私たちは二十七日に行われた茨城県立近代美術館での開会式と合評会、そして翌日の交流会に参加した。高文祭全国展は力量という面では流石にレベルが高いが、その質という面から見れば玉石混交である。そのまま作家デビューできそうなものから、美大受験用の対策課題に毛の生えたような質のものもある。非常に目を引く作品もあるが、若い講師が実績づくりのために手を貸したのではないのかと訝られる作品も一方で存在する。



3年 高橋 史華 「缶@堆積 91X117cm CG・プリント」

本県の作品は全体から見れば地味で保守的な印象である。選ばされる作品が生徒たちの感性や時代の空気を反映した作品であるのかどうか、選抜の際に十分考慮されなければならぬだろう。東北の

雄は秋田県の作品である。今までの枠にとらわれない作品をつくらせて、それを秋田の美術教育として発信しようとする指導者たちの意図がはつきりと見える。優秀作品を選抜して全国大会に送るだけでは発展がなさざる。本県においても、意図と戦略を持ち全県を挙げて全国展に取り組む必要があるように感じられた。

第61回NHK杯全国高校放送コンテストに参加して

放送委員会顧問 伊藤 規生

昨年は全国大会出場権を逃してしまい(顧問としては十年ぶりです)、生徒共々悔しい思いをしました。今年は全国出場権獲得を第一目標に、番組作りに励みました。生徒たちも取材・編集などががんばってくれて、首尾よく出場権を勝ち取ることができました。いま番組を聞き直してみると、あちこちアラが見えるものの、これで全国に行くんだという気迫のようなものが感じられます。

二年振りの全国大会。一度途切れてしまったノウハウの差はいかんともしがたく、上位進出はなりません。三年生はこれで引退です。最後に全国を経験させることができよかつ



三年引退後、一気に人数が減ってしまいました。番組作りは人数がすべてではありません。残った部員たちです。来年度に向けて取材をはじめます。来年はもっとよい報告ができるよう、がんばりたいと思います。

また、NHK杯大会とは別に高校総合文化祭放送部門大会もあって、来年は滋賀で行われます。県内の予選はもう終わって、二年生の橋本彩がアナウンサー部門で一位となり出場権を獲得しました。本校で総文祭放送部門出場権獲得は平成十一年以来十六年振りとなります。総文祭はNHK杯とは異なりフェスティバル性の高い大会ですが、上位入賞を目指して練習に励みたいと思います。

平成25年度 部活動報告

●運動部

バレーボール部
福島県高等学校新人体育大会
女子

2回戦 福島東1 2平商業

テニス部
福島県ジュニアダブルステニス大会
男子

優勝 菅野将大・小川雄大ペア
7位 佐久間瑠・渡邊隆二ペア

福島県春季選抜ジュニアシングル選手権大会
男子
優勝 小川雄大
準優勝 菅野将大

水

泳部
東北高等学校選手権大会
400M自由形・1500M自由形

200M個人メドレー
400M個人メドレー

福島県総合体育大会
50M自由形・200M自由形
400M自由形

50M平泳ぎ
福島県高等学校新人大会
50M自由形・200M自由形

400M自由形
東北高等学校新人体育大会
200M自由形・400M自由形

ダンス部

福島県高等学校総合文化祭
総合開会式 アトラクション
出演

●文化部

吹奏楽部
福島県アンサンブルコンテスト

サクソフオーン八重奏 銀賞
クラリネット八重奏 銀賞

合唱部
福島県声楽アンサンブルコンテスト

Aグループ 銀賞
Bグループ 銅賞

平成26年度 部活動報告

●運動部

野球部

第66回春季東北地区高等学校
野球福島県大会東北支部大会

1回戦 福島東10 0川俣
2回戦 福島東6 3学法福島

3回戦 福島東8 0成蹊
準決勝 福島東0 12聖光

第66回春季東北地区高等学校
野球福島県大会

1回戦 福島東3 2帝京安積
2回戦 福島東4 5学法石川

第96回全国高等学校野球選手
権福島大会

1回戦 福島東10 0埼玉工業
3回戦 福島東5 11保原

第66回秋季東北地区高等学校
野球福島県大会東北支部予選

2回戦 福島東8 3橘
3回戦 福島東5 8学法福島

敗者復活3回戦
福島東5 0福島南
代表決定戦

科学部

平成25年度生徒理科研究発表
会東北地区大会

発表数 3編 全て奨励賞
平成25年度高文連生徒理科研
究発表会県大会生物部門

発表数3篇 1編 優秀賞
2編 奨励賞

優秀第3席「カラ類の混群に
おけるニツチ分割」

大槻恒介・大橋 陵

書道部

福島県刻字協会展出品
福島県書きぞめ展

書きぞめ賞 遠藤万輝

福島東13 3本宮

第66回秋季東北地区高等学校
野球福島県大会

1回戦 福島東4 1相馬
2回戦 福島東5 1いわき光洋

3回戦 福島東0 6光南
秋季東北地区高等学校野球選
手権大会

1回戦 福島東6 5福島商業
2回戦 福島東6 9橘

サッカー部

福島県高等学校体育大会東北
地区大会

地区予選免除
福島県高等学校体育大会

2回戦 5 0相馬東
準々決勝 0 1学法石川

プリンスリーグ東北
第1節 0 3ベガルタ仙台ユース

第2節 2 3八戸学院光星
第3節 0 3三ツイオ山形ユース

第4節 0 12尚志
第5節 0 4青森山田
第6節 0 5聖和学園

卓球部

第7節 0 4仙台育英
第8節 0 9盛岡商業

第9節 0 1富岡
第10節 0 13ベガルタ仙台ユース

第11節 0 0八戸学院光星
第12節 0 5三ツイオ山形ユース

第13節 0 5尚志
第14節 2 7青森山田

第15節 0 3聖和学園
第16節 1 7仙台育英

第17節 1 0富岡
第18節 2 5盛岡商業

F3リーグ
第1節 3 2二本松工業

第2節 0 0保原
第3節 3 1福島成蹊

第4節 0 4福島工業
第5節 1 0橘

全国高校サッカー選手権福島
県大会

1次大会免除
2次大会

3回戦 1 0日大東北
4回戦 0 2湯本

平成26年度福島県高等学校新
人体育大会サッカー競技 県

北地区大会
1回戦 2 0福島西

2回戦 5 1二本松工業
準決勝 4 1福島

決勝 3 2福島工業
平成26年度福島県高等学校新
人体育大会サッカー競技 県

大会
2回戦 1 0湯本

準々決勝 3 1葵
準決勝 1 3学法石川

卓球部
福島県高等学校体育大会東北
地区大会

男子
学校対抗
2回戦 福島東3 0福島北

3回戦 福島東3 0学福
4回戦 福島東0 3福西
第5位 (県大会出場)

個人ダブルス
佐々木・菅野組 ベスト8

佐々木夏穂 ベスト16
菅野康徳 ベスト16

岩谷樹弥 ベスト16
山科樹生 県大会出場

女子
学校対抗
2回戦 福島東0 3安達

代表決定戦
1回戦 福島東3 1保原

2回戦 福島東3 2福島
第7位 (県大会出場)

個人ダブルス
齋藤・浅川組 ベスト8

第60回福島県高等学校体育大
会県大会

男子
学校対抗
2回戦 福島東0 3安積

個人ダブルス
佐々木・菅野組 ベスト8

佐々木夏穂 4回戦まで
菅野康徳 4回戦まで

岩谷樹弥 2回戦敗退
山科樹生 2回戦敗退

女子
学校対抗
1回戦 福島東3 2田村

2回戦 福島東0 3福島高専
(ベスト16)

個人ダブルス
齋藤・浅川組 ベスト16

福島県総合体育大会東北地区
大会

男子

学校対抗
 1回戦 福島東2 3 福島北
 個人シングルス
 菊池遼也、山科樹生、吉野
 嵩基 県大会出場
 女子
 学校対抗
 1回戦 福島東3 1 福島北
 2回戦 福島東0 3 安達
 代表決定戦
 福島東0 3 橘
 個人シングルス
 本田紗希 ベスト16
 第67回福島県高等学校体育大
 会県大会
 男子
 個人シングルス
 菊池遼也 初戦敗退
 山科樹生 2回戦まで
 吉野嵩基 初戦敗退
 女子
 個人シングルス
 本田紗希 初戦敗退
 全日本卓球選手権県北予選
 男子
 ジュニアシングルス
 吉野嵩基 県大会出場
 女子
 一般ダブルス
 本田紗希・佐藤美咲
 ベスト16 県大会出場
 全日本卓球選手権福島県予選
 男子
 ジュニアシングルス
 吉野嵩基 3回戦まで
 女子
 一般ダブルス
 本田紗希・佐藤美咲
 2回戦まで
 萩オーブン卓球選手権(名取
 市)
 女子

団体
 3部1位
 決勝 福島東3 2 東北大学
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 男子
 学校対抗
 1回戦 福島東3 0 福島明成
 2回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦
 福島東1 3 二本松工業
 個人ダブルス
 吉野・山科組 ベスト16
 個人シングルス
 (県大会出場)
 山科樹生、菊池遼也 県大会出場
 女子
 学校対抗
 1回戦 福島東3 0 福島明成
 2回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦
 福島東1 3 福島
 福島県高等学校新人体育大会
 県大会
 男子
 個人ダブルス
 吉野・山科組 2回戦まで
 個人シングルス
 山科樹生、菊池遼也 2回戦まで
 陸上競技部
 福島県高等学校体育大会
 東北大会出場者
 男子
 走幅跳 六戸大夢 5位
 混成八種競技 関 尚之 3位
 女子
 400m 菅野杏奈 4位

800m 菅野杏奈 3位
 1500m 菅野鈴菜 5位
 4x100mリレー 6位
 石井瑛実子・菅野杏奈
 石田百合子・菅野鈴菜
 東北高等学校陸上大会
 女子
 800m 菅野杏奈 4位
 全国インターハイ出場
 1500m 菅野鈴菜 4位
 全国インターハイ出場
 全国高等学校総合体育大会
 女子
 800m 菅野杏奈 予選敗退
 1500m 菅野鈴菜 予選敗退
 福島県高等学校新人大会
 東北新人大会出場者
 男子
 1500m 小林海都 5位
 走幅跳 六戸大夢 2位
 女子
 混成七種競技 石田百合子 3位
 福島県高等学校駅伝競走大会
 男子 9位 2時間20分03秒
 バスケットボール部
 福島県高等学校体育大会県北
 地区大会
 男子
 予選
 福島東49 79 福島南
 県大会出場決定トーナメント
 福島東138 39 福島北
 福島東107 40 保原
 福島東105 39 福島明成
 女子
 予選
 福島東89 60 安達
 福島東69 50 福島南
 1位トーナメント
 福島東52 65 福島成蹊
 福島東54 50 桜の聖母
 第3位
 福島県高等学校体育大会

男子
 1回戦 福島東86 60 白河旭
 2回戦 福島東69 63 栗田大暉
 準々決勝
 福島東63 70 清陵情報
 女子
 1回戦 福島東50 74 磐城一
 福島県総合体育大会県北地区
 大会
 男子
 1回戦 福島東63 34 保原
 2回戦 福島東91 37 安達
 準決勝 福島東60 68 福島工業
 順位決定戦
 福島東64 60 福島
 女子
 1回戦 福島東91 37 本宮
 2回戦 福島東51 79 福島商業
 県大会出場トーナメント
 福島東74 50 福島
 福島東68 80 安達
 福島県総合体育大会
 男子
 1回戦 福島東70 57 喜多方
 2回戦 福島東55 67 清陵情報
 福島県選抜高校バスケットボ
 ール選手権大会県北地区大会
 男子
 予選トーナメント
 福島東129 32 本宮
 福島東70 47 福島工業
 1位トーナメント
 福島東54 90 福島東稜
 福島東57 77 福島南
 女子
 予選トーナメント
 福島東51 63 福島南
 福島東94 48 福島明成
 県大会出場トーナメント
 福島東73 48 安達
 福島東69 66 福島
 福島県男女総合バスケットボ
 ール選手権大会

男子
 1回戦 福島東57 73 清陵情報
 女子
 1回戦 福島東69 54 福西クラ
 2回戦 福島東23 118 白河旭
 福島県選抜高校バスケットボ
 ール選手権大会
 男子
 1回戦 福島東68 53 安積黎明
 2回戦 福島東24 88 若松商業
 女子
 1回戦 福島東43 77 田村
 福島県高等学校新人大会県北
 地区大会
 男子
 予選トーナメント
 福島東106 52 二本松工業
 福島東69 45 福島成蹊
 1位リーグ
 福島東34 72 福島南
 福島東63 51 福島商業
 福島東50 72 福島
 女子
 予選トーナメント
 福島東142 14 本宮
 福島東62 59 福島成蹊
 1位リーグ
 福島東38 119 福島西
 福島東70 67 福島商業
 福島東49 69 桜の聖母
 福島県高等学校新人大会
 男子
 1回戦 福島東62 56 原町
 2回戦 福島東84 47 学法石川
 準々決勝
 福島東52 82 福島東稜
 女子
 1回戦 福島東99 84 白河
 2回戦 福島東79 108 学法石川
 柔道部
 福島県高等学校体育大会県北
 地区大会
 男子団体 第3位

予選リーグ
 福島東 4 0 保原
 福島東 5 0 福島南
 福島東 3 2 聖光学院
 1) 4位決定戦
 福島東 2 3 二本松工業
 福島東 3 2 聖光学院
 男子個人
 100kg超級第2位 原 悠斗
 100kg超級第5位 佐藤浩太郎
 90kg級第1位 唯木 翔
 以上3名県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子団体
 1 回戦 福島東 4 1 いわき海星
 2 回戦 福島東 1 3 若松商業
 2 回戦敗退
 男子個人
 90kg級 唯木 準決勝敗退
 第3位(東北大会出場)
 100kg超級 原 2 回戦敗退
 100kg級 佐藤 1 回戦敗退
 東北高等学校柔道大会
 男子個人
 90kg級 唯木 1 回戦敗退
 (対戦相手
 若手県一関学院高 佐藤)
 福島県総合体育大会県北地区大会
 少年男子
 先鋒の部第8位 渡邊大賀
 次鋒の部第3位 渡邊雅也
 副将の部第3位 佐藤浩太郎
 以上3名県大会出場
 福島県総合体育大会
 先鋒の部 渡邊大賀
 1 回戦敗退
 次鋒の部 渡邊雅也
 2 回戦敗退
 副将の部 佐藤浩太郎
 1 回戦敗退
 福島県高等学校新人体育大会

県北地区大会
 男子団体 第3位
 予選リーグ 1勝1敗
 福島東 3 2 福島南
 福島東 1 4 聖光学院
 3) 6位決定戦
 福島東 4 1 福島
 福島東 3 2 保原
 男子個人
 73kg級第3位 渡邊雅也
 県大会出場
 福島県高等学校新人大会
 男子団体
 予選リーグ 1勝1敗
 3 校リーグ
 福島東 3 2 郡山北工
 福島東 0 5 平工業
 ベスト16校より全国高等学校
 校柔道選手権大会福島県大会
 出場
 男子個人
 73kg級 渡邊雅也
 ベスト8により全国高等学校
 柔道選手権大会福島県大会出
 場
 全国高等学校校柔道選手権大会
 福島県大会
 男子団体
 1 回戦 福島東対聖光学院
 3人残して敗退
 男子個人
 73kg級 渡邊雅也
 1 回戦敗退
 剣道部
 福島県高等学校体育大会 県
 北地区大会
 男子団体
 9位予選突破(県大会出場権
 獲得)
 福島県高等学校体育大会
 男子団体
 1 回戦敗退
 (対学法石川高校 1 2)

福島県総合体育大会 県北地
 区大会
 男子団体
 5位予選突破(県大会出場権
 獲得)
 男子個人
 5位 宝槻亮汰
 ベスト16 窪田龍一
 福島県総合体育大会
 男子団体
 1 回戦敗退
 (対磐城高校 0 1)
 福島県高校新人体育大会 県
 北地区大会
 男子団体
 5位予選突破(県大会出場権
 獲得)
 5人制に4名で出場
 福島県高校新人体育大会
 男子団体
 1 回戦敗退
 (対ザベリオ学園 2 3)
 5人制に4名で出場
 県北高等学校剣道選手権大会
 (福島県高等学校選抜剣道優
 勝大会予選)
 男子団体
 予選リーグ敗退
 (対聖光学院 0 5)
 (対本宮高校 2 2)
 代表者戦の結果敗退
 5人制に3名で出場
 弓道部
 福島県春季弓道大会
 男子個人
 優勝 吉沢利彦
 福島県遠の選手権大会
 男子個人
 優勝 佐藤 隼
 福島県高等学校体育大会県北
 地区大会
 男子団体 優勝
 伊藤佑樹、石井 輝、吉沢

利彦、奥谷惇義 高橋 慧
 平石鳳誠、坪井 匠
 男子個人
 2位 伊藤佑樹
 4位 奥谷惇義
 6位 鏡 拓也
 県大会 古山雅人
 女子団体 2位
 梅津 舞、荒明由希、鈴木
 知夏、菅野初音、三浦美佑
 谷津 朋、八島麗奈
 女子個人
 優勝 若梅紗織
 県大会 鈴木知夏
 福島県高等学校体育大会
 男子団体 ベスト4
 伊藤佑樹、平石鳳誠、吉沢
 利彦、奥谷惇義、坪井 匠
 石井 輝、菊地 慧
 女子団体 優勝
 八島麗奈、梅津 舞、鈴木
 知夏、菅野初音、若梅紗織
 荒明由希、三浦美佑
 福島県総合体育大会県北地区
 大会
 女子団体
 優勝 福島東A
 穴戸奈緒、佐藤美涼、渡邊
 ひより
 2位 福島東D
 八島麗奈、梅津 舞、若梅
 紗織
 3位 福島東C
 鈴木知夏、荒明由希、菅野
 初音
 女子個人
 2位 若梅紗織
 3位 渡邊ひより
 6位 穴戸奈緒
 東北高等学校体育大会
 女子団体 ベスト8
 八島麗奈、梅津 舞、鈴木
 知夏、菅野初音、若梅紗織

荒明由希、三浦美佑
 福島県総合体育大会
 女子
 【近の競技】団体
 2位 福島東A
 穴戸奈緒、佐藤美涼、渡邊
 ひより、加藤里奈
 【遠の競技】団体
 2位 福島東B
 八島麗奈、梅津 舞、若梅
 紗織、谷津 朋
 5位 福島東C
 鈴木知夏、荒明由希、菅野
 初音、三浦美佑
 【総合成績】団体
 3位 福島東A
 穴戸奈緒、佐藤美涼、渡邊
 ひより、加藤里奈
 全国高等学校体育大会
 女子団体 ベスト16
 八島麗奈、梅津 舞、鈴木
 知夏、菅野初音、若梅紗織、
 荒明由希、三浦美佑
 福島県高等学校新人大会県北
 地区大会
 男子団体 優勝
 塩澤裕理、和智恭介、平石
 鳳誠、大槻尚矢、鈴木駿介、
 大津裕平、佐藤飛翔
 男子個人
 4位 鈴木駿介
 県大会出場
 大槻尚矢、大津裕平、佐藤
 飛翔
 女子団体 優勝
 八島麗奈、佐藤美涼、穴戸
 奈緒、渡邊ひより、加藤里
 菜、梅津 舞、若梅紗織
 女子個人
 優勝 八島麗奈
 4位 佐藤美涼
 5位 梅津 舞
 6位 渡邊ひより

県大会出場
 加藤里菜、若梅紗織、石郷岡千里
 福島県高等学校新人大会
 男子団体 3位
 塩澤裕理、和智恭介、平石鳳誠、大槻尚矢、鈴木駿介、大津裕平、佐藤飛翔
 女子団体 ベスト4
 八島麗奈、梅津 舞、佐藤美涼、渡邊ひより、加藤里菜、宍戸奈緒、佐藤瑠璃
 福島県高等学校弓道選抜大会
 女子 優勝
 梅津 舞、佐藤美涼、加藤里菜、渡邊ひより
 東北高等学校弓道選抜大会
 (仙台)
 女子団体 ベスト8
 梅津 舞、渡邊ひより、加藤里菜、佐藤美涼
 東日本大会福島県予選会
 男子 2位
 峯岸駿行、塩澤裕理、大槻尚矢、和智恭介、平石鳳誠、大津裕平、寺田侑也
 女子 2位
 梅津 舞、渡邊ひより、佐藤美涼、杉山 舞、加藤里菜、八島麗奈、横山日向子
 全国高等学校弓道選抜大会
 (鹿児島)
 女子団体 ベスト16
 梅津 舞、渡邊ひより、加藤里菜、佐藤美涼
 バレーボール部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子
 予選リーグ
 福島東2 0聖光
 福島東2 0保原
 福島東2 0学法福島

決勝リーグ
 福島東2 0福島工業
 福島東1 2福島商業
 11チーム中 第2位
 女子
 予選ブロック
 福島東2 0桜の聖母
 福島東2 0福商
 福島東1 2保原
 順位決定リーグ
 福島東0 2安達
 福島東2 0福島明成
 福島東2 1本宮
 福島東1 2聖光
 福島東0 2橋
 15チーム中4位 県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子
 2回戦 福島東2 0尚志
 3回戦 福島東0 2田村
 ベスト16
 女子
 2回戦 福島東2 0郡山商業
 3回戦 福島東1 2相馬東
 ベスト16
 福島県総合体育大会東北地区大会
 男子
 予選リーグ
 保原、福島明成、聖光学院、学法福島の各校に2 0
 Aブロック1位
 決勝リーグ
 福島西、福島明成の各校に2 0で勝ち、福島工業に0 2で負け。
 10チーム中 第2位
 女子 第6位
 福島県総合体育大会
 男子
 1回戦 福島東2 0小野
 2回戦 福島東2 0会津工業

準々決勝 福島東0 2田村
 ベスト8 (春高バレー県予選大会出場権獲得)
 本宮市6人制バレーボール総合選手権大会
 男子 10チーム中 第2位
 女子 第6位
 東北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会
 予選リーグ
 福島工業、福島、保原、福島北の各校に2 0
 Bブロック1位
 1位・2位決定戦
 福島東2 0福島商業
 女子 第10位
 10チーム中 第1位
 春高バレー福島県代表決定戦 (FTV杯)
 準々決勝 福島東0 2田村
 福島県高等学校体育大会新人大会東北地区大会
 男子
 予選リーグ 1位
 1位・6位リーグ
 福島東0 2福島商業
 福島東1 2福島工業
 福島東2 0学法福島
 福島東2 0福島
 福島東2 0保
 10チーム中 第3位
 女子 第8位
 福島県高等学校体育大会新人大会
 男子
 2回戦 福島東2 0大沼
 3回戦 福島東0 2相馬
 ベスト16
 女子
 1回戦 福島東0 2いわき光洋
 バドミントン部
 福島県高等学校体育大会東北

地区大会
 男子団体
 県大会出場
 男子シングルス
 橋本裕貴 ベスト8
 遠藤惇平 ベスト16
 県大会出場
 女子団体 県大会出場
 女子ダブルス
 青山・遊佐組 ベスト8
 女子シングルス
 青山 菜 3位
 遊佐公美 ベスト16
 県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子団体 団体
 男子シングルス
 橋本裕貴、遠藤惇平 出場
 女子団体 出場
 女子ダブルス
 青山・遊佐組 出場
 女子シングルス
 青山 菜、遊佐公美 出場
 福島県総合体育大会東北地区大会
 女子ダブルス
 遊佐・高橋組 ベスト8
 大森・高橋組 ベスト16
 女子シングルス
 遊佐公美 ベスト16
 県大会出場
 福島県高等学校新人大会東北地区大会
 男子団体 県大会出場
 男子ダブルス
 渡邊・斎藤組 ベスト32
 男子シングルス
 遠藤淳平 県大会出場
 斎藤優汰 ベスト32
 県大会出場

女子団体 県大会出場
 女子ダブルス
 遊佐・高橋組 ベスト8
 女子シングルス
 遊佐公美 ベスト8
 大森千明 ベスト8
 県大会出場
 高橋奈菜美 ベスト16
 県大会出場
 ハンドボール部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 2回戦 福島東44 21福島
 準決勝 福島東23 25福島西
 3位決定戦
 福島東28 24福島工
 福島県高等学校体育大会
 1回戦 福島東28 16尚志
 2回戦 福島東48 13本宮
 3回戦 福島東25 26福島西
 ベスト8進出
 福島県総合体育大会東北地区大会
 優勝
 福島県総合体育大会
 2回戦敗退
 福島県高等学校新人大会東北地区大会
 優勝(10チーム中1位)
 福島県高等学校県大会新人戦
 準決勝 福島東15 19帝京安積
 3位決定戦
 福島東28 15いわき総合
 3位
 (東北大会選抜決定戦出場)
 東北大会県選抜大会
 福島東15 35学法石川
 福島東17 19帝京安積
 福島東23 20いわき総合
 3位(上位大会進出はなし)
 ソフトボール部
 第36回福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会

1 回戦 福島東 4 6 郡山北工
 福島県高等学校体育大会東北
 地区大会
 福島東 15 0 福島
 (4 回コールド) 1 位
 福島県高等学校体育大会
 予選リーグ
 福島東 12 0 小高工業
 福島東 2 0 須賀川
 1 位通過
 準決勝 福島東 5 4 相馬
 決勝 福島東 3 7 須賀
 準優勝
 第40回男子東北高等学校ソフ
 トボール選手権大会
 福島東 1 0 古川(宮城)
 延長 8 回タイブレーク
 福島東 2 1 福岡(岩手)
 延長 8 回タイブレーク
 福島東 4 2 須賀川 優勝
 福島県総合体育大会
 1 回戦 福島東 0 2 安積黎明
 福島県高等学校新人体育大会
 予選リーグ
 福島東 14 3 小高工
 (4 回コールド)
 福島東 1 4 郡山北工
 リーグ 2 位通過、準決勝へ
 準決勝 福島東 6 8 須賀川
 延長 10 回タイブレーク
 3 位

テニス部
 東北ジュニアダブルステニス
 選手権大会
 男子
 18 歳以下
 優勝
 菅野将大・小川雄大ペア
 2 位
 佐久間瑠・渡邊隆二ペア
 女子
 18 歳以下
 優勝
 菅野将大・小川雄大ペア
 2 位
 佐久間瑠・渡邊隆二ペア
 3 位
 佐久間瑠・渡邊隆二ペア
 女子
 学校対抗 優勝
 ダブルス
 3 位
 花田恭子・大川原結花ペア
 福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 3 位
 シングルス

優勝
 花田恭子・大川原結花ペア
 福島県春季ジュニアシング
 ルス選手権大会東北地区大会
 男子
 18 歳以下
 3 位 佐久間瑠
 福島県春季ジュニアダブルス
 テニス選手権大会
 男子
 18 歳以下
 3 位
 菅野将大・小川雄大ペア
 16 歳以下
 ベスト 8
 瓦吹拓人・角掛未来ペア
 福島県春季ジュニアシング
 ルステニス選手権大会
 男子
 18 歳以下
 優勝 菅野将大
 3 位 小川雄大
 福島県高等学校体育大会東北
 地区大会
 男子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 1 位 菅野将大
 2 位 小川雄大
 ダブルス
 優勝
 菅野将大・小川雄大ペア
 3 位
 佐久間瑠・渡邊隆二ペア
 女子
 学校対抗 優勝
 ダブルス
 3 位
 花田恭子・大川原結花ペア
 福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 3 位
 シングルス

3 位 小川雄大
 5 位 菅野将大
 ダブルス
 2 位
 菅野将大・小川雄大ペア
 女子
 学校対抗 ベスト 8
 ダブルス
 ベスト 8
 花田恭子・大川原結花ペア
 柴田真夕・安齋里奈ペア
 東北高校テニス選手権大会
 男子
 学校対抗 2 回戦敗退
 シングルス
 菅野将大 1 回戦敗退
 福島県総合体育大会東北地区
 大会
 男子
 部シングルス
 優勝 瓦吹 拓人
 2 位 角掛 未来
 部ダブルス
 優勝 瓦吹拓人・角掛未来ペア
 準優勝 高橋和也・小山和輝ペア
 3 位 玉手光次・佐藤洗希ペア
 部ダブルス
 3 位
 鈴木将虎・高橋亮太ペア
 女子
 部シングルス
 3 位 佐藤千尋
 4 位 豊島紗月
 部ダブルス
 2 位
 佐藤千尋・豊島紗月ペア
 部シングルス
 優勝 大内藍子
 3 位 大山千咲
 部ダブルス

優勝
 大内藍子・大山千咲ペア
 福島県総合体育大会
 男子
 部シングルス
 2 位 小川 雄大
 女子
 部シングルス
 6 位 大内藍子
 7 位 大山千咲
 東北ジュニアテニス選手権大
 会
 男子
 18 歳以下シングルス
 3 位 小川雄大
 全国大会出場
 準優勝
 菅野将大・小川雄大ペア
 全国大会出場
 東北ジュニアシングルスステニ
 ス選手権大会
 男子
 優勝 瓦吹 拓人
 2 位 角掛 未来
 女子
 3 位 大山千咲
 4 位 佐藤千尋
 福島県高等学校新人体育大会
 東北地区大会
 男子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 優勝 小川 雄大
 2 位 瓦吹 拓人
 3 位 角掛 未来
 4 位 玉手 光次
 女子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 優勝 小川 雄大
 2 位 大山 千咲
 3 位 佐藤 千尋
 4 位 豊島 紗月

福島県高校新人テニス選手権
 大会
 男子
 学校対抗 優勝
 シングルス
 3 位 小川雄大
 東北選抜高等学校テニス選手
 権大会
 男子
 学校対抗 3 位
 全国大会出場
 東北秋季ジュニアテニス選手
 権大会
 男子
 シングルス
 優勝 角掛未来
 3 位 瓦吹拓人
 3 位 玉手光次
 ダブルス
 優勝 小川雄大・他校の選手ペア
 2 位 小山和輝・高橋和也ペア
 3 位 瓦吹拓人・角掛未来ペア
 3 位 玉手光次・佐藤洗希ペア
 女子
 シングルス
 2 位 佐藤千尋
 3 位 大山千咲
 4 位 大内藍子
 ダブルス
 優勝 佐藤千尋・大山千咲ペア
 2 位 豊島紗月・菅野真里奈ペア
 福島県ジュニアダブルステニ
 ス大会
 男子
 3 位 小川雄大・皆川智史
 (他校の選手) ペア

水泳部

福島県高等学校体育大会東北地区予選
男子総合5位
女子総合6位
200M平泳ぎ3位 諸橋優太
50M自由形1位 安藤実莉
50M自由形3位 岩崎真由
800M自由形3位 六戸朱里
第60回福島県高等学校体育大会水泳競技大会
800M自由形8位 六戸朱里
第62回東北高等学校選手権水泳競技大会
800M自由形出場 六戸朱里
第49回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会
100M背泳ぎ7位 安藤実莉
200M自由形6位 六戸朱里

山岳部

福島県高等学校体育大会東北地区登山大会(吾妻山系:5月8日~10日)
男子3パーティー参加(1年生9名、2年生5名、3年生7名)
福島県高等学校登山大会(安達太良山系:5月28日~5月31日)
男子3パーティー参加(1年生4名、2年生5名、3年生7名)
優秀パーティー(全国大会出場候補)Bパーティー
東北地区高等学校新人登山大会(西吾妻山系:9月4日~6日)
男子3パーティー参加(1年生7名、2年生5名)
福島県高等学校新人登山大会(吾妻山系:9月25日~27日)
男子3パーティー参加(1年生7名、2年生5名)

ダンス部

第7回日本高校ダンス部選手権 東北予選 出場
福島県高校ダンス部第8回発表会
第45回 福島わらじまつりダンシングソーだないと準グランプリ
創立60周年記念賞(個人賞) 石川紗希

吹奏楽部

第31回定期演奏会開催(5月 福島県文化センター)
東北地区音楽祭参加(5月 福島市音楽堂)
第64回県高等学校音楽学習発表会参加(6月 いわきアリーナ)
第52回福島県吹奏楽コンクール第32回東北大会(7月 県文化センター)
金賞
第52回福島県吹奏楽コンクール(8月 郡山市民文化センター)
銀賞
第42回福島県アンサンブルコンテスト東北支部大会(12月 福島県文化センター)
サクソフオーン六重奏 金賞
フルート三重奏 金賞代表
クラリネット四重奏 金賞
金管八重奏 銀賞
第42回福島県アンサンブルコンテスト(1月 いわきアリーナ)
サクソフオーン六重奏 金賞
フルート三重奏 銅賞

合唱部

第6回声楽アンサンブルコン

文化部

テスト全国大会高等学校部門金賞(グランプリ大会出場・入賞)(平成26年3月)
響きaiコンサート出演
東北地区音楽祭参加(5月 福島市音楽堂)
第1回福島市内高等学校合唱団合同コンサート出演(6月 福島市公会堂)
第64回県高等学校音楽学習発表会参加(6月 いわきアリーナ)
第12回定期演奏会開催(7月 福島市音楽堂)
第38回全国高等学校総合文化祭「いばらき総文2014」合唱部門出演(7月 つくば市・ノバホール)
第68回福島県合唱コンクール(8月 会津若松市・会津風雅堂)
金賞
骨髄バンク推進全国大会in福島出演(9月 福島テルサ)
第66回全日本合唱コンクール東北支部大会(9月 青森市文化会館)
銅賞
第31回福島県声楽アンサンブルコンテスト(12月 福島市音楽堂)
Aグループ 銀賞
Bグループ 銅賞

美術部

第38回全国高等学校総合文化祭美術展(出品) 高橋史華
演劇部
東北地区高等学校演劇連盟春の発表会
東北地区高等学校演劇連盟秋のコンクール
科学部
平成26年度高文連生徒理科研

生物部門 奨励賞

大槻恒介・野田康平
大橋 陵・曳地隼人
菅野貴之・渡辺英彦
平成26年度生徒理科研究発表会東北地区大会参加
発表3編
平成26年度中学生・高校生科学技術研究論文野口英世賞
高校 個人研究の部
入選 大槻恒介 渡辺英彦

書道部

第59回福島県たなばた展
たなばた賞
3年 遠藤万輝
銀河賞 1年 鈴木新凌
奨励賞 3年 長谷川聖華
第23回国際高校生選抜書展(書の甲子園)
入選 3年 長谷川聖華
第49回福島県高等学校書道展
奨励賞 1年 松浦莉奈
奨励賞 1年 鈴木新凌

写真部

平成26年度東北高等学校写真展
放送委員会
NHK杯全国高校放送コンテスト東北地区大会
ラジオドキュメント部門
優秀2席
創作ラジオドラマ部門
優秀1席
アナウンス部門
優秀2席 後藤健太
優秀4席 橋本 彩
NHK杯全国高校放送コンテスト福島県大会
ラジオドキュメント部門
優秀2席【全国大会進出】
創作ラジオドラマ部門
優良

部活動を終えて

生徒会

生徒会活動を通して、私は計画と反省が如何に大切かを学びました。生徒会の活動の主は行事の運営です。行事は事前に計画を立てなくては実行できません。その計画を直前になつてから決めると、どうしても不測の事態が起きてしまいます。例えば期限内に余裕があつても、少しずつ着実に計画することが重要です。
また、実行したら、良かった点と悪かった点の両方を反省することも重要です。うまくいった事は引き継ぎ、不評だった事は改善する。この過程を経ることで、回を増す毎に完成度の高い行事運営が可能になることも分かりました。
私は、これからの生活にこの

二つを取り入れていきたいです。自らの成長はあるとき、劇的に
行るわけではなく、計画を立て、
実行し、反省する。この繰り返
しによって一歩ずつ進んでいく
ものだと思います。(蔵野建至)

弓道部

私は弓道部の活動を通して、
どんな事にもあきらめず立ち向
かっていく精神を養いました。
弓道の大会では、勿論的に矢
を中てるのが大事ですが、そ
れ以上に弓を引く上での心構え
と呼吸(気合、息合などと言
います。)や、弓を引くフォーム
などが重要視されており、それ
らが優秀である選手には、優勝
とは別に射道優秀賞という賞が
与えられる程大切にされていま
す。

その事を知った私は、誰より
も強く、そして美しい弓を引く
為に研究と練習を重ね、先生方
や先輩方、同級生にアドバイス
を仰ぎ、何度団体を外されそう
になってもその度に奮起し、努
力を重ねた結果、最後まで団体
メンバーとして戦い抜く事が出
来ました。

前述の賞をいただく事は出来
ませんでした。この三年間の
努力は、絶対にこれからの私の
人生の糧になると思っています。
(坪井 匠)

陸上競技部

私は部活動を通して学んだこ
とは今後生きていく上で大切な
ことばかりであると今改めて実
感しています。

陸上競技では、受け身のまま
では自分の能力は向上せず、自

分の欠点からどうすれば記録が
伸びるのかを考えながら練習を
重ねなければならず、以前の顧
問の先生の「気づきのない継続
は惰性だ」という言葉通りだと
思いました。

また、陸上競技は基本的な走
跳投の動きをし、それらを大会
で当たり前にやるには基礎の反
復が大切です。それらができな
い人は強くなれない競技である
ため、基本の重要さを改めて学
びました。

時々、「陸上やって楽しい?」
と言われるのですが、陸上は自分
の限界突破・能力の向上がすぐに
肌で感じられる競技です。私は
この三年間部活動で学んだこと
は受験勉強・生活していく上で
重要なことばかりであったと思
います。(武藤幸太)

剣道部

僕が剣道部に入つての一番の
経験は部長という役職についた
ことです。僕は先輩に任命され
て部長になりました。僕は人の
上に立ち、指示を出したりする
経験がなくとても不安でしたが、
周りの部員に助けられ、やり遂
げることができました。

部長という役職を通して、先
生の指示を仰いだり、練習の号
令など、すべての事において責
任を持つて行わなければならな
いと思いました。部活動だけで
なく日常生活においても自分の
行動のすべてにおいて責任を持
ち、今、何をすべきなのかをしっ
かりと考えて行動しなければな
らないと思う。

部長という役職は自分にとつ
て大変でしたが高校生活の中で

一番のいい経験となりました。
(山口真輝)

水泳部

私は水泳部での高校三年間の
活動を通して、継続することの
苦しさとそれによって得られる
喜びと周りで支えてくれる人々
がいることの大切さを学びまし
た。

水泳の練習は水中を泳ぐだけ
に見えますが本当にそれだけの
ことです。泳ぎ終わるとなんも
言えぬ状態になります。それが
がなげだかチヨイ気持ちいいの
です。この気持ち良さは一人で
は得られません、それぞれの目
標に向かって邁進し時には好敵
手となる仲間がいるからこそ味
わえたのです。

私は部としての活動が他の部
活と比べて少ない上に頼りがい
のない部長でしたがその少ない
活動の中でも一人一人と親睦を
深め水泳部でしか味わえない経
験をすることができました。こ
の経験は決して代えがたいもの
です。水泳部と私を支えてくれ
た全ての人に感謝の意を表した
いと思います。ありがとござ
いました。(諸橋優太)

ハンドボール部

私は、ハンドボール部に所属
して学んだことが三つあり
ます。一つ目は、仲間と協力し
努力することです。ハンドポー
ルは、チームワークがとても重
要なスポーツです。なので、チ
ームが一つになるようにみんな
努力しました。二つ目は、感謝
の気持ちをお忘れなことです。
ハンドボールができたのは、先

生方、マネージャーそして親な
どの支えがあったからだと思います。
これからも感謝の気持ち
を忘れることなく生活してい
たいです。三つ目は、何事にも
臨機応変に対応することです。
私は、ハンドボールをやつてい
たからこそ臨機応変に対応する
力が養われたと思います。

私は、部活動をしていて学ん
だことを忘れずにそして、役立
たせていきたいです。ハンドポ
ール部に所属していて本当に良か
ったと思います。(松井 啓)

男子バレーボール部

部活動は仲間との協調性を学
ぶ場であると思う。バレーボー
ルは一人だけでは勝てない。コ
ートの中の六人が必死にボールを
つないで、ベンチのメンバーや
ギャラリの方々が雰囲気盛
り上げながら試合を作つていく
ものだ。そのために、部活動の
メンバー間では互いに注意をし
合うことも勝利につながる、言
いたいことを言い合えるような
友達以上の関係でなければなら
ず、協調性が必要なのだ。

私は部長を務めてきたが、決
して楽ではなかった。責任を問
われ、時には部員と衝突するこ
ともあり、やりたくない役職だ
と思う。しかし、部長の経験か
ら学ぶものは多い。必ず、引退
する時にやつて良かったと思
えるはずだ。私自身、この経験
は将来の役に立つ、無駄ではな
かったと後悔はしていない。

最後に、顧問の章子先生、保
護者の方々、先輩方、部員に深
く感謝の気持ちを伝えたいと思
う。(霜山隼輝)

女子バレーボール部

一年生へ。たくさん食べて大
きくなって強くなってバレー部
を支えて下さい。みんなかわい
くて好き!!筋肉もつとつけない
よ!!

二年生へ。中学校では先輩が
一人も入らずバレー部がつぶれ
た私にとって初めての先輩はあ
なたたち。だから全員辞めよう
とした時は心底恨んだし、正直
どう接していいか最後まで悩み
ました。でも引退式で泣いてく
れたみんなを見て、安心した。
あとは任せます。

三年生へ。引退まで九人でい
れてよかった。一人も辞めなく
てよかった。こんなにずっと一
緒にいたから、お互いに良い面
も悪い面も知り尽くしたよね。
こんなに自我をはっきりさせる
のバレー部だけです。本当に幸
せな経験をさせてくれてありが
と。東のバレーを選んでよかつ
た。

何となく入った部活で一生も
の経験ができて幸せでした。
みんな追いついてきてくれてありが
と。(平 真衣)

卓球部

「卓球って個人競技だよな?」
私も中学生の時は、先輩が強
くて、レギュラー争いで自分の
事しか考えられなかった。でも、
高校に入學し、先輩が卒業して
自分たちが一番上になった時、
私が部長になった。正直何やつ
ていいのか分からなかったし、
やりたくもなかった。でも卓球
部をまとめようと思う意識は自
然とでてきて、部長としての初

めての団体戦をした。結果は思うようにいかず、悔しい思いを勝たたい、東高としてもっと上にいきたいと思つたようになった。それから、部活が終わってからの居残り練習で仲間の練習を付き合うようになったり、今までより部活に熱心になれた。

卓球の団体戦は一種の個人競技であるが、仲間の試合は信じるだけで自分のプレーに集中することができるといふすばらしい連帯感を改めて感じる事ができた。

(石谷樹弥)

ソフトボール部

みなさんは夢中になって毎日同じことを繰り返したことはありますか？ただこなしているだけでは意味がありません。ソフトボール部では冬は曜日ごとにシーズン中はほぼ毎日同じ練習をしてきました。ではなぜ同じ練習をしてたのだという、それは起きるか起きないか分からない一瞬のためにです。練習での守備練習の際、決め事で外野手は捕手へストライクボールを投げなければ追われません。これを毎日やっていました。東北大会での一アウト二塁のピンチ、打球はレフトに大きなフライ。捕球してからの捕手への送球はストライクボールでありピンチを脱出できました。毎日の積み重ねが東北大会優勝に貢献しました。

人間は百回叩けば壊せる壁も九十九回で終わってしまうことが多いと思います。限界を決めずやり続ける。そしてやり続けた先に何か新しい発見がある。これを学びました。

(石橋直也)

柔道部

私は、高校入学時からインターハイ出場を目標にしてきた。出稽古に行くなど努力はしてきた。最後の県大会準決勝、会心の技を決めたが、ポイントをリード局逆転された。私は自分に甘い面があり練習で妥協することがあった。試合でもそれが出てしまった。自分の意志・執念というものは弱かったと実感した。勝敗を分けたのは知力や体力の差ではなく意志の差であった。とはいえ、努力の甲斐があり、東北大会や県選抜チームとして全国大会に出場した。仲間もあちこちでできた。そして、本当にたくさんの方々にお世話になった。県大会準決勝では東北地区全員で私を応援してくれていた。そだ。改めて人との繋がりの大切さを実感した。柔道で培った多くの事は私の宝である。

最後に、共に練習に励んでくれた柔道部のみんな、ありがとう。

(唯木 翔)

男子バドミントン部

部活動を通して学んだことは「努力する人を結果はしょっちゅう裏切るが、努力しない人を結果は絶対裏切らない」ということです。

え？おかしくね？と頭に疑問符を浮かべたと思いますが、つまり、高のx君に勝ちたい！と思ひ必死に練習しても、彼もまた自分の学校で練習しており、加えて自分より効果的な練習をしているかもしれない。

女子バドミントン部

バドミントン部で過ごした日々は、長いようで短い時間だったように思います。男女共明るく、時には楽しく、時には厳しく活動をしてきました。部活を通して学んだことはたくさんありますが、その中でも一番大切なことがあります。

それは、仲間の大切さです。つらい走り練などの基礎トレーニング、羽打ちまでが長くかかる練習は、互いに耐え、声をかけながら頑張ってきました。男女共に競い合い、互いに進歩できたと思います。また、前顧問であった富良野先生には応援の大切さを教わり、大会では互いを応援し、支え合いました。応援の力は、自分の力ともなりとても支えられました。これらのことは仲間の大切さを実感させるものでした。

バドミントン部での活動はとても有意義なものでした。東高バド部で本当によかったと思います。

(青山 栞)

男子テニス部

僕にとって部活動は、心身ともに大いに成長できるものであったと思います。その中で特に仲間の大切さを学びました。苦しい練習や試合を乗り越えられたのは、共に苦しい練習を経験する仲間の存在や仲間の声援があったからこそであり、それによって苦しい試合も何度かものになっていったと思います。また、そのような仲間とともに一つの目標に向かって努力し続けることの大切さも同様に三年間で学んだことの一つです。テニス経験者は少なかつたので、レベルに大きな差があり、七人での団体戦には正直不向きでした。しかし、チームで同じ目標を持ち、一人一人がそれぞれの課題を克服していききました。結果は決して満足できるものではありませんでしたが団体戦を通し個人戦とは違った難しさや努力し続けることの大切さを改めて感じることができました。(菅野将大)

女子テニス部

女子テニス部以上に個性的で愉快なメンバーがそろっている部活はあつたのでしょうか。毎日笑いが絶えず、いつもいつも支えてくれたみんなに感謝したいと思います。そして、この充実した時間の中で、技術面、特に精神面において、大きく成長することができました。

私はこのメンバーで三年間テニスでできたことを本当に誇りに思います。思うような結果がでなくてもケガで苦しんでも、あきらめないみんなの姿を見て

サッカー部

サッカー部での活動を終えて学んだことは、生活のレベルが部活動のレベルになるといふことです。これは先生に何度も言われてきたことで自分の中でも意識し感じてきたことでした。

今年は東北リーグでの厳しい試合が毎週行われ、毎試合を万全の調子で挑むことができたのが大事でした。そこで私生活つまりオフザピッチで、どれだけ試合のために良い準備ができるかが重要だったのです。ただし東高生である限り勉強との両立は不可欠で、両道をそれぞれ言い訳にしておろそかにはできません。このシビアな毎日を受容せず過ごすことで、本当に厳しい試合の細かい部分に表れてくるのでした。

そして、この生活をする上でやるべき事を自分で考え、実行する力が必要であり、その力を養うことができました。これらからこの生活で生かしたいと思えます。

(平野健流)

野球部

私はチームワーク、団結力がいかに大切で、それが実力以上

の力を発揮させてくれることを野球から教えてもらった。私達のチームは私立高校と比べると決して体は大きくない。また個々の実力も私立高校には及ばない。しかしそういった高校にも勝つことができた。これはチーム全員が本気で「勝ちたい」と思い、全員が同じ方向を向いた結果である。この時に一つにまとまるのが良い結果を生むことを実感した。

団結して戦うということは私自身、主将をやっていた当り前のように思えてむしろかしいものであった。しかし主将の立場でそれを実現できたということは大きな自信にもなった。そして団結して戦うことがいかに大切か身にしみて実感することができた。

これ以外にも様々な事を野球から教えてもらった。私自身、野球には「感謝」しかない。

(赤間大樹)

男子バスケットボール部

僕は「もし」という仮定条件で始まる事柄全てを憎みます。一番憎むのは多くで部活動における勝負ごとにそれを持ち込むことです。けがさえしていなければ、シュートを入れていけば、部活動で多く耳にすると思います。それを反省とくり、自己満足で終わる環境は何の生産性も生まれないことを高みを目指し後輩たちに気付いてほしいです。勉強でも「今回は調子悪い」と聞くともう耐えられませんが、悪かった部分一点のみでなく、それまでの過程がどのようなであったかを顧みる上で、次に

つなげてほしいです。前の行までは大衆向けであり、最後の一つ正直なことを。どの社会にも必ず自分以上の権威が存在します。それに対して必ず批判の目を持って懐に飛び込むことが大事です。争いを避けて上手く生きる人は全てが浅い。浅すぎる。もっとアグレッシブだったらなあ。(湯田 匠)

女子バスケットボール部

女子バスケット部に入部してから引退するまで、あつという間に時間が過ぎてしまいました。毎日、部活が楽しみで放課後が待ち遠しかったです。楽しいことばかりではなく、たくさん苦しい経験もしました。引退した今では、全部が良い思い出です。部活動を通して学んだことといわれ、一番に思い浮かぶことは、「礼儀」です。入部して先輩方に最初に、あいさつや言葉遣い、態度などあたり前のことを徹底して教えられました。礼儀がきちんとされていることは、福島東高バスケット部の良い伝統です。

ここには書ききれないほどのたくさんのご経験を学ぶことができました。それは家族との時間を削り私たちの練習に毎日付き合ってくれた先生方、応援してくれた保護者のおかげです。後輩たちには、福島東高バスケット部のプライドを持って頑張ってください。(加藤愛海)

山岳部

私が山岳部に入った特別な理由はありませんでしたが、活動する中で多くのことを経験し、

自然の雄大さの片鱗に触れることができたため、今では入った良かったと思っています。私は活動する中で様々なことを学びました。一つは準備と反省の重要性です。登山中には急な天候変化や予想外の出来事がつきものです。そのため、予め、様々な事態の想定と、それに備えた準備が重要となります。また、実際に山行を終えた後での反省は次回の山行の安全を高めることに繋がります。

この二つの過程は多くのことに応用可能であり、危機管理能力の向上に役立てることが出来ます。

二つ目は実践の必要性です。確かに準備、計画は大切ですが、実際に行動する中で有効なもの、でなければ意味がありません。事前に準備したことを実際の状況に即して臨機応変に対応することが大切だということを実感することができました。二年間貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。(松野遠太)

ダンス部

私がダンス部で過ごした二年半は体感時間にして二分半ほどのものでした。その理由が非常に充実した時間を部員と共有できたからというのは言うまでもありません。東高にダンス部が創設されて以来、最多の部員数で部活動を行ってきました。その状況下で心配されたのは、部員間及び学年間での意思疎通が図れるか、という問題でしたが、部員らの優れた社交性のおかげ

合唱部

でその心配は払拭されました。保護者会が発足し、経済面、精神面において多大なるお力添えをいただきました。顧問の先生はいつも私達の一歩近くで応援してくださりました。ダンス部の活動に関わった全てのの人に、感謝しています。ありがとうございました。私達の活動をご覧になった方の中に何か心に残るものがあれば幸いです。そしてこれからの東高ダンス部の飛躍を願ってやみません。(渡部恭平)

私達合唱部は、今年度から新体制となりました。新体制というのは、部を仕切る幹部を全員三年生にする事です。今までは二年生もいましたが話し合いなどの際に遠慮して思った事が言えないという事がありました。全員三年生にすることで内容の濃い話し合いが出来ました。もちろん互いの意見が衝突することも度々ありましたがたくさん衝突して良かったと思います。

私が学んだことはとりあえずやってみる事です。この体制を導入するかとも迷いました。しかしいざ導入してみると部の運営がとても円滑になり結果やってみて良かったと思えました。もし、やってみなかつたらこうはならなかつたと思います。新体制を提案して下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。(井上 桜)

科学部

部活動を通して学んだことは、

「目標を持つことの大切さ」だ。例えば、受験であったり、資格習得であったりと。私たち科学部は理科研究発表会でした。普段はあまり遅くまで活動してはなかった私達が、下校時間ギリギリまで議論したり、メモを作成したり、発表練習したりといま思い出すと、とても充実した生活だった。

目標を持つことは人生を構成する材料の一つにならないだろうか。過去に持った目標への経緯は今の自分を構成している目標はこれから構成していく。この繰り返して人は生きていく。これが人生というものだと考える。

書道部

これを書くにあたり、高校三年間を振り返ってみると、部活も勉強も充実させることができたと思います。三十三期メンバーは当初三人しかおらず、後輩もいませんでしたが、三年生も一年生も徐々に加入してきてくれたおかげで活気溢れ、「存続の危機」も脱せました。

活動を通して学んだことは、一つの作品を完成させる大切さです。小さな作品も大きな作品も、最後まで手を抜かず真剣に向き合い一つの作品を創り上げていく。とことんこだわり、妥協せず諦めもせず自分の思い描いた作品を仕上げていくのは達成感があります。この経験は確実に私の糧の一つになります。

(白田一樹)

した。
最後に、頼りない部長で部員には迷惑をかけたが、みんなどこまで楽しかったぞ。橋本先生、宍戸先生、熱心なご指導ありがとうございました。
(遠藤万輝)

美術部

三十三期の美術部は例年に比べ、非常に珍しい美術部でした。部員が七人いて、それぞれ強い個性がありました。そんな環境の中で周囲の意見も聞きつつ作品を作ることで自分の考えやイメージを表現することを学びました。さらに、多くの人の作品を見ることで自分の見識を深めました。
そして、美術部のことを記すにあたって外せない存在が顧問の片平先生です。片平先生は世間一般では変人と呼ばれるのですが、美術に関しては知識も豊富で、多くの作品を作っています。私達には美術に関する話やそうでない話も沢山話して下さいました。

高校生活で部活は多くの経験をもたらしました。ここで学んだ事を今後生活に生かせるかどうかは分かりませんが、学ぶことを忘れずに行動していきたいです。
(高橋史華)

演劇部

演劇を通して学んだことの中で一番大切だと考えているのは、仲間と協力することで初めてできるものがあるということです。演劇は一人ではできない。舞台上立つ役者だけでなく、舞台を支える裏方、そして舞台を見

てくれる観客もよい舞台をつくる上では必要な存在だ。その全員が同じ方向を見て、同じ思いを共有したときに感動や共感が生まれ、初めて伝えることができるのだと三年目にしつと分かってきた。失敗したことを自分の中だけで反省して、自分一人が頑張るという考え方はチームで一つのものをつくることとは不可能だ。反省を全体で共有することで、新しい視点から解決策が見つけれられるとともに一体感のある雰囲気をつくることができる。これは決して簡単なことではないが、共有することと分かれることもあるということとはこれからの生活に活かしていきたい。
(角田詩織)

吹奏楽部

私の吹奏楽部としての活動は定期演奏会から始まり、音楽祭、諸コンクール、そしてまた次年度へと、挑戦の連続であり、学ぶことは数え切れない程あった。その中でも強く心に残っているのは、計画、協力の大切さである。

努力はもちろん大切だが、我武者羅に努力するだけではいけない。このことは、学生指揮者やセクション・パトリダーを中心に濃密な計画・練習を重ねたことを通して学んだ。そして、そこには協力が不可欠であった。

また、三年間を通して確実に前へは進んだはずも、決して満足を感じられたことはなかったと改めて気づく。しかし、それが挑戦というもので、これは人生の全てにあてはまるだろう。

お世話になった方々や仲間達、そして音楽への感謝を胸に、部活動を通して学んだことを生かして、今後の人生も挑戦していきたい。
(高野明日夏)

写真部

私が部活動を通して学んだことは様々あります。撮影技術はもちろんです、仲間の大切さや支えて下さった人々のありがたさなどです。

それらを一番感じたのが写真甲子園と呼ばれる写真選手権大会へ出品する作品を制作した時です。その大会は、三人一組でテーマが自由で各班に分かれて制作しました。初め、テーマがなかなか決まらなかったのですが、最終的に私の意見に賛同してくれ、ついてきてくれました。そこから全員の家族・親戚に被写体の協力を求んでいたました。幼稚園生から大人まで様々な人に協力していただき自分たちはいろいろな人々に支えられているんだなと実感しました。結果は残念ながら予選落ちとなりました。

結果は残念ながら予選落ちとなりました。しかし、仲間と一つの作品を作る大変さ、仲間同士助け合う大切さをこの部活から学びました。
(安齋峻平)

英語部

私が英語部で学んだことは、言葉は違ってても、理解しあう努力をすれば海外の人とも心を通わせることができるということです。私は特に英会話を習っていたわけではなかったのですが、入部した当初はALTの力によって先生の仰ることを聞き取ることがすら難しく、自分の思っている

ことを伝えるなどもつての他でした。しかし、聞き取れなかったら何度かくり返していただいたり、単語だけでも伝えようとしたりするうちに、少しずつ会話が進むようになってきました。現在の日本は周辺国との関係が悪化したりグローバル化の波に呑み込まれたり諸外国との関係性の見直しを迫られていると思います。その中で大切なのは相手を理解しようとする互いに努めることだということをお私はこの部を通して学んだと思うので、それをこれからの生活に活かしていきたい自分でありたいと思います。
(佐藤 慧)

放送委員会

実質二年間に満たない活動期間でしたが、様々な濃い経験をすることができました。

私が関わっていたのは主に番組制作でした。番組制作で学んだことは産みの苦しみです。ドラマなどどんなシナリオにするか、ドキュメントなら何を題材に扱うか、誰に取材をするかを一から考えます。なんでもできる中で何を考えるのか考え出すのは創造的でとても楽しいことです。メンバード何度も話し合っ

て構成を固めていきますがここで論理構成能力と客観的視点が必要になります。ドラマなら初見の人でも理解できるように複雑すぎないシナリオでなくてはなりませんし、ドキュメントなら導入から本論、結論への話の運び方をよく検討しなければなりません。これらの問題をクリアする為の仲間との議論もとても良

い経験だったと思います。
(羽田優花)

応援委員会

応援団を通して私が学んだことは三点あります。
一点目は、忍耐強さの向上です。縁の下の力持ちとして活動する応援団では、応援する対象が不利な状況でも耐えて、応援席を盛り上げなくてはなりません。そのような経験から忍耐強さを高めることができました。

二点目は、礼儀作法です。多くの人の注目を浴び、人と接する機会が多い応援団では、礼儀作法が重要です。目上の人に対する態度を応援団で学ぶことができました。

三点目は、自己表現がうまくなったことです。人前で声を出したり、演舞をする応援団で、羞恥心が取り除かれていき、自分の意見を出す機会が以前に比べて多くなりました。

これらの三点は、社会で生きていく術に通ずるものがあると思います。私は、応援団で学んだことを今後の人生に活かしたいです。
(菅野知也)



転任者の言葉

日高 郁子

二十六年四月に福島東高校に赴任して、九ヶ月が経ちました。前任の原町高校も文武両道を掲げる学校でしたから、福島東高校の校風には比較的早くなじむことができたと思っています。

数学を担当し、進路指導部の一員として過ごしたこの九ヶ月で、私が東高生について感じたこと期待していることなどを少し書いてみたいと思います。

東高生の一日は、目一杯フル稼働です。朝のゼロ授業 七校時までの授業 部活動 遅い時間に帰宅してから取り組む各教科の課題。このルーティンを東

高生は当たり前になさっています。「大変だ。つらい。」と思うのではなく、「充実した高校生生活を送るために、時間の使い方工夫しよう。」と捉えているように感じます。目標に向かって努力する東高生の生き生きとした姿に日々触れることができていることを嬉しく感じています。

私は、数学の授業の中で、「こ

こは、みんなの数学の腕の見せ所だ。」という表現で解法のキモやそれに伴う式変形のポイントを説明することがあります。

私が言うところの「君たちの腕の見せ所」とは、自己の力を存分に発揮してほしいという願いであると受け止めてもらえたらと思っています。東高生は、そ

れぞれが素晴らしい能力を持っています。しかし、全員がその力を一〇〇%発揮していると言いきれるわけではなく、まだまだ余力を残している生徒たちがいることも事実と感じます。東高生には、内に秘めた力を発揮するための地道な努力を積み重ねて、より高みを目指してください。これを期待せずにはいられません。

そのためには、私自身が東高生に最大の支援ができるようにまだまだ努力しなければなりません。東高生を支えるスタッフの一員に加わった今、東高生にエールを送り続けていく覚悟です。

これからも、福島東高校の実

現、校舎は大規模改修の工事を行っている最中です。不便を感じることもありますが、三カ年計画の二年目が終わろうとしています。自分が高校時代に過ごした教室の内壁や床が取り壊されているのを見たときには、一抹の寂しさを感じました

編集後記

力をこの地域に向けて社会に向けて発信し続けることを期待しています。

今回の福島東高校同窓会会報第十一号発行にあたり原稿や資料を寄稿いただきました同窓会長様をはじめ皆様方にはご多用のところ、ご協力くださいまして厚く御礼申し上げます。私が福島東高校に赴任して三年が経ちました。高校時代足を踏み入れるのを躊躇した部屋（体育教官室）に常駐していることに

対し、多少の違和感を感じながらも母校に勤務できることを嬉しく思っております。

がむしやらに学習や部活動に明け暮れた日々。現在の生徒たちも、学習や部活動に積極的にチャレンジし、生き生きと学校生活を送っています。まさに「文武両道」の言葉通りです。そのような後輩たちの姿に触れて、自分自身の責務を痛感します。私が教員として、そして先輩として生徒たちに伝えることは何かをしつかり見据えて、今後とも真摯な態度で生徒と向き合っていくことと思います。

現在、震災から四年が経過し、原発事故すら過去のものとされつつある印象です。今後は福島で暮らす我々が、協力して故郷を再生しなければなりません。今春晴れて同窓生の仲間入りを果たす卒業生が、やがてはその原動力となってくれることでしょう。そういった自覚と力が本校生にはあると思います。

最後になりましたが同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育にご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(第十二期生 菅野 真幸)

平成26年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	田村秀夫	退職(定年)
教諭	関川博巳	退職(定年)
教諭	今野充宏	安積黎明高校
教諭	平澤貞博	橘高校
教諭	渡邊吉城	保原高校
教諭	富良謝和信	教育センター
常勤講師	遠藤武広	退職
常勤講師	大久保博	退職
常勤講師	志村龍也	退職
常勤講師	齋藤義樹	退職
養護教諭(期付)	半沢恵梨	退職
時間講師	佐藤英嗣	退職
時間講師	石橋亮宏	退職

平成26年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	本多光弥	原町高校	理科
教諭	大槻文彦	只見高校	理科
教諭	荒川政浩	教育庁	地歴公民
教諭	日高郁子	原町高校	数学
教諭	荻野敬史	川俣高校	理科
常勤講師	佐藤英嗣	継続	保健体育
常勤講師	後藤沙織		英語
常勤講師	志村龍也	継続	数学
常勤講師	菅野剛		国語
養護教諭(期付)	萩原香澄		
非常勤手当講師	齋藤義樹	継続	英語

